

マスターズで記録続々

三郷市陸協の5人

三郷市陸上競技協会の「マスターズ陸上部門」に所属する会員が、五種競技や投てき五種競技の混成競技で次々、日本記録を樹立している。記録を樹立したのは55歳から91歳の計5人。これほど多くの会員が短期間に日本記録を打ち立てるのは珍しい。同部門の講師を務め、自身も昨年、投てき五種競技で日本記録を樹立した駒崎秀雄さんは「混成競技は1日で5種目を行う厳しい競技ながら、練習量や気力で衰える体力や技術力をカバーしている」と強調。「孤独な戦いだ、互いに励まし合う仲間の存在も大きい」と話している。

研究・練習熱心さ成果に

日本記録を樹立したのは (91)、小勝康雄さん(81)、年齢順に、門井光男さん 大兼茂子さん(80)、鈴木



駒崎さん(前列中央)の指導の下、日本記録を達成した大兼さん、小勝さん、芝野さん、鈴木さん(前列右から時計回り)

マスターズ陸上 競技成績に関係なく、生涯楽しく同年代の人々と短・中・長距離走、ハードル、跳躍、投てきなど幅広い競技が出来る陸上競技。競技クラスは5歳刻みで、5年ごとにクラス別の最若手選手となるため、記録の更新や上位入賞のチャンスがある。

一方、小勝さんは4月6日に茨城県石岡市で行われた「第66回茨城マスターズ陸上競技記録会」の投てき五種・M80クラス(男性・80〜84歳)に出場。ハンマー投げ17.58、砲丸投げ8.10、やり投げ26.94、重量投げ(持ち手から球までの長さが短い、ハンマー投げと似た競技) 8.39、円盤投げ17.68で合計222.7点を獲得し、同じく日本新記録を更新した。

鈴木真喜子さん(55)は同記録会で投てき五種・W55(女性・55〜59歳)に出場。ハンマー投げ26.93、砲丸投げ8.27、やり投げ21.75、重量投げ8.61、円盤投げ18.14で合計233.75点を獲得し、日本新記録を更新した。

また、大兼さんは昨年9月、北海道帯広市で行われた「第11回北海道マスターズ投てき及び第8回跳躍競技大会」で投てき五種・W75(女性・75〜79歳)に出場。ハンマー投げ18.54、砲丸投げ6.79、やり投げ10.84、重量投げ6.37、円盤投げ15.02で合計209.9点を獲得した。事務の手違いからか記録が出ていなかったが、今年3月に改めて記録が発表され、賞状が手元に届いた。

大兼さんは「昨年7月から競技を始め、記録が伸びるのが楽しかった」、小勝さんは「70歳で入部し、投

てき五種は初挑戦だったが、以前、30年程やってきたソフトボールの延長みたいなもの」と話した。また、鈴木さんは「昨年は結果が振るわなかったのだけれど、80代になっても挑戦し続けたい」、芝野さんは「一つずつ丁寧に集中して競技に臨んだ」と喜んだ。さらに誰もが、「講師である駒崎さんのおかげ。今後も練習に励み、記録を伸ばしたい」と話していた。

駒崎さんは「皆の研究・練習熱心さが成果につながった。課題や挑戦欲を持つことがさらなる記録更新につながる」と激励した。